

会 議 録

会議の名称	第10期第8回小金井市行財政改革市民会議		
事務局	企画財政部企画政策課企画政策係		
開催日時	令和4年6月24日（金）午後7時00分～午後9時00分		
開催場所	市役所第二庁舎801会議		
出席者	委員	大谷 基道 会長、黒崎 晋司 副会長（職務代理者）、 八木 尚子 委員、馬場 利明 委員、高橋 良一 委員、浅野 由美 委員、 中村 彰宏 委員、溝口 貞彦 委員、松井 大平 委員	
	事務局	市長 西岡 真一郎 行政経営担当課長 平野 純也、企画政策係主査 森 純也	
欠席者	中村 文亮 委員		
傍聴の可否	ⓐ ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数	1人
会議次第	別紙1のとおり		
会議要旨	別紙2のとおり		
提出資料	小金井市行財政改革2025（案）に対する答申について 資料1 小金井市行財政改革2025（案）について（答申） 資料2 その他、意見・提案があった検討箇所について 資料2別紙 小金井市行財政改革2025素案について		

別紙 1

小金井市行財政改革市民会議（第8回）次第

日時 令和4年6月24日（金）

午後7時00分から

場所 市役所第二庁舎801議室

- 1 会議録の確定について
- 2 小金井市行財政改革2025（案）に対する答申について
- 3 その他

※ 配付資料

- | | |
|-------|--------------------------|
| 資料1 | 小金井市行財政改革2025（案）について（答申） |
| 資料2 | その他、意見・提案があった検討箇所について |
| 資料2別紙 | 小金井市行財政改革2025素案について |

第 10 期第 8 回小金井市行財政改革市民会議 会議録

(午後 7 時 00 分開会)

- ◎会長 第 8 回小金井市行財政改革市民会議を開会する。
出席及び資料について事務局から説明をお願いする。
- ◎事務局 欠席の御連絡は、本日はいただいていない。遅刻の御連絡は、浅野委員、松井委員兩名より、いただいている。
本日の資料としては、「資料 1 小金井市行財政改革 2025 (案) について (答申)」、「資料 2 その他、意見・提案があった検討箇所について」、「資料 2 別紙小金井市行財政改革 2025 素案について」が事前配付資料である。
それ以外に、「資料 2 差し替え」が当日配付資料である。
- ◎会長 それでは、本日は市長が出席されているので、御発言をお願いします。
- ◎市長 本日も行財政改革市民会議に御出席をいただき、感謝申し上げます。
行財政改革 2025 の策定もいよいよ大詰めを迎えてまいりおり、市民会議の皆様には、大変お忙しい中、毎月のようにお集まりいただくとともに、この間にも様々な調整などに御協力いただいておりますことに心から御礼と感謝を申し上げます。
行財政改革 2025 は、現在、市民の皆様からのパブリックコメントを終え、担当のほうで集計作業を進めている。本日の市民会議では、この行財政改革 2025 素案に対する市民会議答申について御議論をいただくということで、まさに最終段階に入ってきている。
また、市議会の特別委員会などが先日も開催されたが、議会においても、この小金井市行財政改革 2025 (案) については、様々な御質疑をいただいております、私たちの考え方などをお伝えするとともに、議会のほうからも様々な御指摘をいただき、この正案化に向け、皆様とともに協力してまいりたいと考えている。
私も前回の市民会議での皆様の活発な御議論を拝聴して、行財政改革に対する皆様方の熱い思いというものも改めて感じるとともに、行財政改革 2025 の今後の推進に対する市長とし

での責任も再認識している。計画は、作っておしまいではなくて、策定することはある意味スタートである。まさに行財政改革は実践することが何よりも重要であるということは、しっかり踏まえてまいりたいと考えている。

また、行財政改革に終わりはないと、限界はないと、私は思っている。ここまでやったら終了ということではなくて、行政は10年後も30年後も50年後も100年後も、常に市民のために進化し続ける、その姿勢が大切であり、そういった意味では、この行財政改革は、基礎的自治体にとって常に希求するテーマであると考えている。そして、今を生きる私たちは、今、未来に向かって必要なこの行財政改革2025にその思いを込めていきたいと考えている。

皆様と一緒に作ってきた、この新しいステージを目指した行財政改革2025はもう既に動き始めている。次回7月の会議では、正式に市民会議の皆様から答申をいただくことになるが、いただいた答申を真摯に受け止め、さらなる推進を図るので、皆様におかれましても、引き続き御支援と御協力のほど、また活発な御審議をお願い申し上げます。本日は皆様よろしく申し上げます。

1 会議録の確定について

◎会長 事務局から説明をお願いします。

◎事務局 今回確定いただきたい会議録は、全体会議第5回、第6回及び第7回である。本日の会議で確定の御承認をいただき、公開を考えている。なお、公開前に軽微な修正等の必要が生じた場合、会長御一任とさせていただきたいと考えている。

◎会長 基本的には、現段階の会議録で確定する。今後、軽微な修正が発生した場合は、会長一任とさせていただきたいが、よろしいか。

(「異議なし」の声)

◎会長 ありがとうございます。会議録は、基本的には確定とする。

2 小金井市行財政改革2025(案)について

◎会長 事務局から説明をお願いします。

◎事務局 この答申案は、市長からの諮問事項である行財政改革202

5の策定等についてに対する答申案であり、行財政改革2025素案に沿った構成で、これまでの市民会議全体会や部会の中での御意見や御発言、部会長まとめなどを取りまとめたものである。この案に対し、初めに会長のほうで御覧いただき、御修正等をいただいた後、委員の皆様にも御修正等をいただいたものが、資料1である。

資料1、答申案では、委員の皆様から御意見をいただいた部分を答申案本文に追加修正したもので、文章や文言等を追加した部分は波線で表し、修正箇所は見え消しで記載している。また、単なる修正ではなく、本日、皆さんで御議論いただくことが望ましい内容については、波線に米印と番号をつけ、内容を資料2に取りまとめている。

本日は、この追加箇所、修正箇所、そして検討箇所について御協議いただくとともに、さらなる御意見等があれば御協議いただき、おおむね答申案として完成させたいと考えている。

本日の会議終了後にいただいていた御意見を事務局で答申案に反映させ、再度、会長とメールにて御調整させていただき、次に、また委員の皆様にも御確認いただき、完成としたいと考えている。

なお、委員の皆様にも御確認いただいた後に微細な調整が生じた場合は、会長、副会長一任ということでお願いできればと考えている。

こうして完成した答申を、次回7月下旬に予定している最後の市民会議において、市長にお渡ししたいと考えている。

なお、いただいた答申は、行財政再建推進本部に、行財政改革2025最終案に沿って提出し、行財政改革2025の完成となる。

◎会長

答申案に関して、御意見、御提案、修正箇所の御説明があればお受けしたい。資料2について、御意見をされた委員の方、補足のコメントをお願いしたい。

◎馬場委員

1ページに「はじめに」とあり、最後のページに「さいごに」とるが、「はじめに」に対応するのは「おわりに」だと思うがいかがか。

◎会長

馬場委員がご指摘のとおり、普通は「はじめに」だと最後は「おわりに」である。

次に、高橋委員から御提案いただき点について補足のコメントをお願いします。

◎高橋委員

まず、1ページ目のところ、「必ずしも好んで行うものではなかった」というよりも、「熱心に行われたとは言い得ない面もあった」とか、それから次の、「本来は前向きに取り組むべきものである」って、「本来は」というのも何か、聞こえ方のニュアンスもあるので、例えば、「全身全霊を傾けて前向きに取り組むべきものである」に変更いただきたいというのが補足である。

◎会長

これは、事務局的には、やらされ感があって、やっていただけれども、本来これはそういうものではないというのを言おうとしたということか。

◎事務局

この辺は過去の市民会議の会議録から、委員の皆さんのご発言を引用したものである、ストレートな表現が多く入っている部分である。

◎会長

高橋委員、再度お願いしたい。

◎高橋委員

ここは全部であるが、「熱心に行われたとは言い難い面もあった」、「言い得ない面もあった」とか。下のほうは、「本来は」のところを、「全身全霊を傾けて」とか「全身全霊をもって」とか、いかがか。

◎会長

「必ずしも好んで行うものではなかった」ということを全取りにして、「熱心に行われたとは言い難い面もあった」とするというような今の御指摘を確認した。

◎高橋委員

「言い難い」じゃなくて、「言い得ない」。

◎会長

「言い難い」でもよろしいと思うが、「熱心に行われたとは必ずしも言い難い」にすると、さらにマイルドになるという気がする。委員の皆さんからも意見お願いしたい。

◎副会長

高橋委員の修正案でよいが、「熱心に行われたとは言い難い面もあった」。これは諮問なので、この市民会議の考えであり、計画の案に対して、市民会議の意見として載せていることから、委員がじっくりくればよいのではないか。

◎会長

特に御異論がなければ、最初の前段部分は、高橋委員の御提案どおりでよいか。

(「異議なし」の声)

◎会長

それでは、「必ずしも好んで行うものではなかった」という

ところは、「熱心に行われたとは言い難い面もあった」ということで、差し替える。

2行後は、「前向きの」を少し修飾した形にする。「本来は前向きに」というところを、「全身全霊を傾けて前向きに取り組むべきである」と、かなり前向き度を強く出した形にする。

◎副会長

この文章は、「しかし」から始まっている。「しかし、本来の行財政改革は」と、「本来」が2つ出ている。波線の印が付いている「本来は」というのを取ればいいと考える。

◎会長

あるいは、選択肢を増やすと、「より前向きに」とするとかぐらいか。今も前向きだが、更にということでどうか。

◎馬場委員

「より」でよい。「全身全霊」もちょっと堅苦しい。

◎副会長

「より」がまた前にある。「より増進するために」。

◎馬場委員

ここにも「より」があった。

◎会長

「本来は」を取って何も入れないと、ちょっと何か足りない感じもする。「本来」だけ取っても、前の「本来の」が生きていけば。「本来の」が行財政改革にしかかからないように見えるので、「本来」で切ればいい。「しかし、本来、行財政改革は、市民の福祉をより増進するために行われる行財政運営の見直しであって、前向きに取り組むべきものである」だと、本来が両方にかかり、点が多いか。

◎副会長

文章の構文からいうと、本来の行政財政改革は、見直しであり、取り組むべきものであると2つにかかっている。主語が1つで、述語が2つある構造である。

◎馬場委員

後の「本来」だけ取ればよいか。

◎副会長

そう思う。

◎中村（彰）委員

「しかし、本来の行財政改革は」、ここで「本来の」というのを取るのはどうか。前のほうの「本来の」というのを取れば、後の「本来」はそのままにしておくという手もある。

◎副会長

「しかし」の前の文は、本来の行財政改革で、間違っただけで、間違った行財政改革のことを言っている文章ではないので、その方がよい。

◎会長

今、中村委員から御提案いただいたが、前の波線※2の後の「しかし、本来の」、この先の「本来」を取ることにして、「しかし、行財政改革は、」で、後はそのまま、原文全部イキということかどうか。「しかし、」の後の「本来の行財政改

革は、」の「本来の」を取るということで、あとは全部イキということにする。

◎会長

次、八木委員、4ページの補足コメントをお願いしたい。

◎八木委員

私たちは市民会議なので、市民の立場で、市民の意見として、こういう答申をしたという大前提がある。言っている内容は同じでも、専門家が言っている内容だけでは市民の感覚と乖離が生じるので、できる限り簡単な言葉で分かりやすく書いたほうが、みんながそうだそうだとってくれるのではないかと思う。

特に、この「パラダイムシフト」については、そんなに身近かなというぐらいの言葉で、全体的にこの言葉だけ違和感を覚えるぐらい難しい気がしたので、分かりやすい言葉に置き換えたほうがよい。読んだ方が、さすが市民の代表で言ってくれた皆さんだ、私もそう思うというところまで行くのが最終的な目的なので、やはりそこはもう少し意識しながらの文章にしたい。

◎会長

置き換えることにする。

次の項目としては4番目、※印にすると5番目。高橋委員、補足コメントをお願いしたい。

◎高橋委員

行革疲れ、協働疲れ。この下の枠の中にもそのように書いてあるので、疲れで恐らく共通させたんだと思うが、ただ、協働疲れというと、行政と民間が、市民と一緒に共に働くということなので、その協働自体がそんなに進んでいるのかなという感じがした。

◎会長

疲れるほどには協働が進んでいないのではという指摘である。

◎高橋委員

協働する前に、もし職員のほうが行革をサボっているのであれば、市民の方は職員に対する不信感が先に立ってというふうにしたので、あくまでも感想である。こういう対句的に使うのであれば、問題ない。

◎会長

協働疲れってあるものなのか。市民の方はやりたいからやっているの、振り回されて行政が疲れるというのはよく聞くが、市民の方は、それは嫌々やっていて疲れるものなのか。

◎副会長

協働疲れではなくて参加疲れであれば、市民の方に理解されやすい気がする。いろんな場に参加の場が用意され、あるいは市民のほうからも提案してそういう場を作って、いろいろ議論したり提案したりはするが、どこまで実現されたか、どこまで反映されたか、その成果が見えづらい中で、参加は一所懸命し

ているが、成果が見えづらく、むなしくなっていくということは多分どこでもあることだと思うので、参加疲れであればよいのではないか。

◎馬場委員

協働疲れまでいく前の話で、例えば市のほうでNPOはこういうことをやってほしいと提案しても、やっぱりこれはお金がないからうちは、他の市が導入できてもうちはできませんのという話はよくあり、提案疲れとかいう話で、協働までいく前にもう、そこで足場を外されるというふうなニュアンスを私は持っている。

◎会長

提案疲れ。行革がルーチン化し、また行革するのかということで、職員が行革疲れをするのは分かるが、ここで市民の方で何で登場するのか。

各事業に対していろんな提案をし、それが取り入れられないということはあると思うが、行革に対する意見でがっかりされるのは委員の皆様かもしれないですけど、行革に対して意見を言うというのはどうなのか。

◎副会長

多分、順序が逆だと思う。市民が提案したり、いろいろ参加したりしてもむなしくなる。だから、そうならないように行革が必要だということはあると思う。職員の人が行革で疲れているから市民も疲れるという順番ではない。

◎中村（彰）委員

「市民は協働疲れを起こす」、これはカットして。そして、「職員は行革疲れを起こす」でよろしいのではないか。

◎会長

「職員は行革疲れを起こす」ということで置き換える。

◎副会長

四角の中も取るのか。

◎会長

四角の中も「行革疲れ」にする。「行革疲れ」で、点以下を削除する。①は、「行革疲れから脱却し、ワクワクする行財政改革を！」で、例の行は削除とする。鉤括弧はなしで、「行革疲れから脱却し」にする。

次、5番目の項目、馬場委員からまた補足コメントをお願いしたい。

◎馬場委員

経常収支比率の説明だが、市民にはやや理解しづらい指標と書いているが、市民もこれを見て、ある程度理解はできているんじゃないのかなと思ったので、これは何か直したほうがよい。

逆に、私は分かりやすいが上に、それを目標にしちゃうと、結果的に財政の内容をよく反映しない指標になってしまっている。

た、もともと90%なんて夢の夢みたいな数字で、それを追いかけていたところがあるので、それが実現したからどうだという先も見えていなかったところもあって、ちょっとこの表現を何とか変えられないかなと思って提案した。

◎会長 前段はこのままで、数値目標はインパクトがあって分かりやすいが、経常収支比率を使うのはどうかという指摘である。

◎馬場委員 その理由は、市民にはやや分かりづらい指標であるというのは少し変な気がする。

◎副会長 馬場委員が言われているのは、経常収支比率が分かりづらいというより、経常収支比率だけでいいのかということか。

◎馬場委員 そうだ。

◎副会長 経常収支比率だけで見るのでいいのか、それをメインで見るのでいいのかということである。そうでないと、「今の小金井市の良さを」云々という次の文章につながらない。財政調整基金が幾らあるのかとか。

◎会長 経常収支比率はどのようなというのは、その数字は後で出てくる。「その点で経常収支比率は現状を見る指標という意味合いが強く、未来に向けての指標とは捉えづらい」と言っているので、細かいのは後ろに任せて、目に見える数値目標はインパクトがあり、分かりやすいが、経常収支比率を用いるのは必ずしも適切ではないぐらいの感じのイメージか。

◎副会長 経常収支比率に重点を置くだけでは全体が見えづらい。

◎会長 経常収支比率だけでは全体が見えづらいと。

◎副会長 全体像を把握しづらいとか。

◎会長 経常収支比率だけでは全体を把握するのが難しい、いかがか。

◎副会長 何かそういう内容のことがあれば、「今の小金井市の良さを」云々というのにつなげていくように思う。

◎馬場委員 しかしで切っちゃってもよいのではないか。

◎会長 切って、しかしのほうがいいかもしれない。

◎馬場委員 「分かりやすい。」で、「しかし、今の小金井市の良さを、どのように次の世代に引き継いでいくかという視点からは、現状を見る」。

◎会長 「目に見える数値目標はインパクトがあり、分かりやすい。しかし、今の小金井市の良さを」って続くということにする。

◎馬場委員 はい。

- ◎会長 「しかし、今の小金井市の良さを、どのように次の世代に」と続くということでしょうか。
- ◎馬場委員 よい。
- ◎会長 最後の項目である。溝口委員、資料2の別紙の、補足コメントをお願いしたい。
- ◎溝口委員 1つは、私たちがこの市民会議の委員になる前の委員の人たちから出された報告書には、行財政改革と市民サービスの向上という両面が掲げられていて、そして、例えば平成29年とその前の役員の人たちの期間ですけれども、その間に保育園の定員が2,000人から3,000人に増員されたということが書かれていた。
- それで、市民サービスの向上のこれは顕著な例だと思うが、今回の2025を見ると、市民サービスの向上に当たるものがなくて、行財政改革一本槍しか書かれていない。そういうところに基本的な問題があるのではないかなと思う。
- 国が幼児教育・保育の無償化という非常に画期的な法案も出したので、それに沿う意味でも、市でもそういう方向に应运っていくべきだと思うが、去年は、市の公立保育園のうちの5園を民営化という案が出された。
- その後、そのうちの3園を廃園するという方針が出され、これは延期になったと聞いていますけど、現在はどういうふうになっているのか。これは市長が一番御存じだと思うので状況をお聞きしたいんですけど、そういう公立保育園の民営化から今度は廃園になって、これは市民サービスの向上ということにはそぐわないんじゃないかというのが第1点である。
- 第2点は、この用紙の裏側に書いてあるが、新しい市庁舎・新福祉会館を建設するという事で、市長から、当初84億円の財政案が打ち出された。しかし、これが市議会に提案されたときには123億円の膨れ上がっていたというふうに聞いている。それに対して、市民案では、その約半額の68.2億円の建設案が出されて、これは市長から何回か再検討をさせてほしいという意見が出て、現在は幾つかの提案が出ていると思うんですけど、それについても市長にお聞きしたいと思うんですけど、この2025では、市庁舎という大きな支出計画のことがほとんど載っていない。これは、市民会議としても当然発言してい

くべきではないのか。

例えばサンフランシスコでは、市庁舎の中に結婚式場とか披露宴会場があり、数組が施行できる。それが非常に市民を結集する大きな目玉になっているということを聞いている。マリリン・モンローとジョー・ディマジオがそこで結婚式をして以来、特に若い女性が市庁舎で結婚をすることが、一つの夢になっているということも聞いている。

そういう夢を市民に与えるものであれば、ある程度費用がかかっても、それは仕方ないというか、そういう目玉になるものは、当然、市民会議から呼びかけていってもいいんじゃないかなと思うが、こういうことについても市長から御説明いただければありがたい。

◎会長

これは、行財政改革2025に対する、答申の案に対する御意見ではなくて、市が出そうとしている行財政改革2025の素案に対する意見ということになるか。

◎溝口委員

そうである。

◎会長

流れとしては、行財政改革2025を策定するために市民の意見が欲しいということで諮問されている。同時並行で2025の策定をしていて、市民会議の議論を捉え、踏まえながら素案までできてきている。現在我々がまとめているのは、2025に対する意見ではなくて、2025を作るためにどういう方向性でいくかという答申案を作っている。

◎副会長

市民会議で今何を作っているのかということか。

◎会長

そうである。大事な論点を溝口委員からいただいたとは思いますが、今回我々がまとめる2025を作るに当たっての方向性という議論からすると、あまり個別の事業論点というのは入れていなくて、どういった方向を目指すべきか議論してきた。それをまとめたのが今回の答申案というふうに理解をしている。でするので、答申の中に個別具体を入れていくのは難しい。

行政側が作っている2025の中には取組事業として幾つか具体的に事業が挙がっているので、恐らくそれに対する御意見ということであれば成立すると思うが、行財政改革2025の方向性をまとめる答申案の中には、入れ込むのは難しい気がする。

◎副会長

溝口委員にお伺いしたいが、今ご自身でご説明いただいた別

紙資料2をどういうふうに扱ってほしいのか。溝口委員ご自身が提出されたことを、私たちはどう受け止めて、どう扱えばいいのだろうかということがまずあると思うが。

◎溝口委員

行財政改革2025を作成する方針にしても、最初に言いましたように、行財政改革一本槍で作られているように思うので、以前の市民会議の人たちが答申で書いていた行財政改革と市民サービスの向上の市民サービスの向上という面が抜けてきているんじゃないかというのが一つの問題だったわけである。

◎副会長

行財政改革2025案にも市民サービスとか行政サービスという言葉は実際に出てきている。そこを目指して改革していくということは言われている。だから、市民サービスの向上が抜けているというのは、何をもって抜けているとおっしゃられているのかわからない。

内容的には保育園の話とか市庁舎の話というのはすごく重要な話だと思うが、この問題をどう取り扱えばいいのかということは何をしたい。

我々は行財政市民会議なので、行財政のことを中心に書かれていないのは当然のことである。市民サービスの向上を目指して行財政改革をしていくことは書かれてあると思うので、そこは御了解いただけるのかなと思う。

こういうご意見が出てきたときに、例えば、「行財政改革の市民会議で産業振興のことが書いていないじゃないか」とか、「環境の保全のこととか、CO₂削減のことが書いていないじゃないか」ということがそれぞれの委員から出されたら、多分、大谷会長はすごく困られるんじゃないかなという気がする。

産業振興も環境も教育も、とても大事な話だと思う。高齢者の福祉の話も書いていないし、などなど言い出したら、多分いろんな話が出てくると思う。それらについて、全部市民サービスの向上でしょって、一括りで言われたら、誰も否定できなくなってしまう。

この会議の場は何について話をする場なのかということが大前提としてあると思う。その辺は、やっぱり皆さんに御理解いただいた上で今まで議論してきていると、受け止めている。

したがって、別紙資料2の溝口委員のご意見は非常に重要なことではあるけれども、この市民会議としてどう扱えばいいの

かということについて、溝口委員に伺いたい。答申に対する意見ではないということであれば、2025の計画書の中に盛り込んでほしいということなのか。

◎会長

今日はこの答申案をまとめる作業に入っており、具体的にどうするかということを決める段階である。例えば、今まで各委員さんから御提案があったのは、ここをこうしてほしい、するべきだ、こうしたらいいんじゃないかというのがあった溝口委員が、これをどこかにこう反映してほしいというのがあれば、それで議論をすることになると思うし、このいただいたものをどうしたいかによって変わってくると思うが、この点いかがか。

◎溝口委員

どういうふうに扱われるかはお任せする。

◎会長

どこかに入れてほしいという御要望ではないということか。この部分をこういうふうに書き換えてほしいということではないと考えてよいか。

◎松井委員

例えば、これを入れられそうなところでいうと、重点取組の3番目のところの公共施設のマネジメントのところ、溝口委員のおっしゃりたいこと、市民サービス向上を目的とした考え方をに入れてほしいとかということであれば入れられると思う。何かしらの文言を追加できると思うが、個別の内容をこの答申案の中に、特にこの段階では難しいのかなという気がする。なので、そういう例えば市民サービス向上を意識して進めてほしいとか、例えばそういうような文言が追加されるのであれば入れられるとは思いますが、そこら辺がどういうふうな扱いとか、お考えで今回出されているのかが分かれば、何らか盛り込めるかとは思いますが。

◎浅野委員

市民の関心も高いことであるので、何か「さいごに」のところ追加で入れることはできないか。こういうことがこれから問題になってくると思うので、この意欲的な計画で庁舎等の困難な課題も乗り越えようとしているという感じで。

◎副会長

浅野委員はすごく親切、優しいなと思う。しかし、そういうことを言い出すと切りがない。言ったもの勝ちになってしまいかねない。

◎浅野委員

そうですね。

◎副会長

答申が増えていけば、計画をもう一回見直さなければいけな

い。

◎浅野委員

そうか、そういう後々まで。

◎副会長

そこまで覚悟しなきゃいけないように思う。そこまでやるかどうか。

◎馬場委員

基本的には、市民サービスの向上というところは、7ページの2の(1)のところで、これは高橋委員が出されたことだと思うが、行財政改革は、そもそも長計に基づいた市民のニーズに対してきちんと応えられるように財源を生み出すためにやるんだということがしっかりこういう形で整理されているので、特に書かなくてもいいのかなと思う。市役所の問題も、例えば建築費のコストだとか設計面の対応だとかというのは、それは行財政ではなくてコストカットの話なので、私は、市庁舎そのものについては入れるべきではないと思う。

◎副会長

市長が答える必要があるのかどうかというのも疑問に思う。この会議は、個別の問題に市長が答える場なのか。

◎市長

そのことをもしよろしければお伺いしたいと思っていた。3問、御質問をいただいております、私も出席していますから、基本的にはどのような御質問にもお答えする責任があると思っておりますし、お答えはできる。

しかし、今、答申をまとめている最中ございまして、今まさにいろいろな角度から御議論いただいているので、例えば数字でちょっと違っている点、誤解もあるようでございまして、御説明したい気持ちもあるんですけれども、そこは会長、副会長の整理に従う。

◎副会長

この文章をどう扱うかによると思う。答申ではこうしましょうとか、計画の素案にはこうしましょうということで一旦結論が出た上で、関係あるから市長に答えてもらう進め方がひとつ。関係ないので、一旦この会議を閉会した上で、せっかくなので考えを聞かせていただきましょうというのがふたつめ。この別紙資料2の扱い方によって、市長の対応も全然違ってくる。だから、これをどう扱うかということに先ほどからこだわっている。

◎市長

よろしく願います。

◎会長

パーフェクトな回答をありがとうございます。まさにそのとおりである。

溝口委員の提案は入れなくてもいいんじゃないかという御意見もあったが、もともとこの市民会議の中では、量の改革ばかりではなく、ちゃんと質の改革を進めて欲しいと議論してきたので、明らかな文言として、質の向上とか、市民サービスの向上というのをどこかに1フレーズ入れておくかどうかというのはあるかもしれない。

それは、どこかに出てくるのか。

◎八木委員

出ている。先ほど馬場委員がおっしゃったように7ページのところ、これからの経営課題と必要な行財政改革のところの一番下の行から、「スマート自治体への転換と多様な主体による市民サービスの実践に最優先で取り組むべきである」というのはもう出ている。もしこの文言をもうちょっと膨らませて、「さいごに」のところにでも、溝口委員がおっしゃるように、行財政改革は、ともかく市民サービスの実践、向上というところが大目標ではあるが、それに向けてというような文言を入れることはできないことではないと思う。しかし、私もやっぱり個別な案件に関しては、もうこの後に及んでは、入れるのは、ちょっと議論の際に達してしまったかなという気はしている。

今言ったところにもちゃんと市民サービスというのが大前提にあるという話はこの答申の中の基本に流れているものだと私は思っていたので、入れなくてもいいかなという気はしている

◎会長

ちょっと私が気になったのは、今の御指摘のところは確かにそうであるが、これは質の向上には読めない。スマート自治体に転換して、いろんな人が携わるとというのが質の向上につながるとまでは明確に言っていないので、ちょっと読みにくいと思う。

質の向上とか市民サービスの向上という文言が入っていたかということである。

◎副会長

素案の中には入っていたのではないか。

◎中村（彰）委員

ところどころ入っている。例えば、12ページの重点取組1では「効果的かつ効率的な市民サービスの提供という点では」と、はっきり書いてある。読み込むと、もっとほかにも出ている。

◎中村（彰）委員

これだけじゃ恐らくないだろうと、もっと出ているはずである。

◎副会長

行財政改革と市民サービスの質の向上とか、市民サービスの領域の拡大とか、とても大事なことだと思うが、そのことと行財政改革のどちらが大きいことかという点については、議論があると思う。

例えば、一時的に市民サービスを低下させなくてはならない局面が今後来るかもしれない。そうしてでも乗り切って持続させていかななくては、生き残らなくてはならないという局面が来るかもしれない。

市民サービスの質の向上とか領域の拡大というのは、それは目指すべきことだと思うが、苦しい局面が来たときにどうやって生き残るのかという話に将来なるかもしれないことも想定すべき。

持続可能な経営というと、行政が経営とは何事か！とまた怒られるのかもしれないが、そういう苦しい局面での行政経営というか、都市経営をしていかなければいけないという、最悪シナリオも見据えた行財政改革という視点も必要であると思う。

したがって、市民サービスの質の向上、それだけが行財政改革の目的とは、必ずしもそうは言い切れないかもしれないと思っている。

◎会長

大体、御意見は出尽くしたようである。

それでは、御意見を総合すると、基本的なコンセプトとしては中に織り込んであるということで、資料2別紙で溝口委員からいただいたものは、今回、本体の中に取り込むのは見送らせていただいて、これについては、こういった御要望をいただいたということを市の関係部局に御認識いただくということで溝口委員よろしいか。

◎溝口委員

結構である。

◎会長

ありがとうございます。これにつきましては、市長宛てに御質問をいただいたところだが、本体とは直接関係ない話になるので、お答えをいただくということはしなくてよろしいのかなと思う。あとは、同じ空間にいらっしゃるので、終わった後、個別で御対応いただければと思う。

ただ、1点、これはもう提出資料として残るので、もし事実誤認があれば、今、補足・訂正してほしい。

◎事務局

了解した。

- ◎副会長 この資料は公開されるのか。これは公開対象となるのか。
- ◎会長 ここに出ているものは全部公開するのか。
- ◎副会長 こちらは、諮問案に対する各委員からの意見なので、これは公開対象だとは思いますが、こういうものも公開対象になるのか。
- ◎事務局 考え方が難しいのは、委員の意見一覧に「別紙のとおり」と入っているので、これがないと説明はつかないと感じる。
- ◎副会長 出せば全部ホームページに載るということになるのか。
- ◎会長 あくまで、一委員が提出した資料というのは、ほかの公的団体の委員会でもある。
- 今回は、傍聴の方にも配付しているので、これは公開になるのではないかと。市のスタンスとしては、どうか。基本的に、出たものは公開か。
- ◎事務局 そうである。原則は公開である。
- ◎会長 出るとなると、議事録で修正コメントを残しておかないと、このまま独り歩きする。
- 残さないということになると、委員が取下げをしない限り、出さないという判断はできないと思う。出したけれど、答申案に関係ないからこれはなかったことにしようということにはならない。
- ◎副会長 そうすると、何かの会議があったら資料を出していけば、どんどんホームページに載るということになってしまう。まさに現在のそういう資料の取り扱いや情報公開の仕方自体が行財政改革の対象になると思う。要するに、情報公開をどのように進めていくのかという話だ。
- 今回は、手続にのっとなって進められているとのことだが、今後、その辺が問題になるかもしれない。
- ◎会長 出ている以上、ここでこれを公開しないという判断は難しい。
- ◎事務局 了解した。
- ◎会長 そうすると、このコメントの中で、もし事実誤認があれば訂正していただくしかないが、市長のほうでそれがあれば、今お願いしたい。
- ◎市長 それでは、御質問者の方には、この会議が終わった後、私なりに、私の考え方をお伝えさせていただく機会を賜ればと思う。

事実誤認ということになりますと、私もこれは今日、今、初めて見た資料ですから、さらなる精査が必要にはなるなと思っておるが、庁舎のところで、総額84.4億円が総額は123億円に膨れ上がっていたというふうに資料には書いてあるが、これは、基本設計時には、総額84.4億円というのは、あくまでも建設コストのみである。建設コストのみであれば、その後、浸水対策で約1.2億円、物価上昇などを踏まえて、建設コストだけでいいますと、90.7億円というのが正しい数字である。

なお、総事業費には、基本設計、実施設計、工事監理、コンストラクションマネジメント業務、建設工事、そして外構工事、敷地外駐車場借り上げ、備品、移転費用、第二庁舎原状回復など、様々な項目が該当されて、そちらも連動して総額が膨れたのは、金額が増えたのは事実であるが、この資料だと、建設コストの84億円に着目すれば、正確には90.7億円というのが正しい数字で、かなり乖離をいているので、この点は訂正していただけたらありがたいなとは思っている。

その他、しっかり拝見させていただければ、お伝えしたいことももしかしたらあるかもしれないが、もう今日はこのような時間帯でもあるので、終わった後、いただいた3点の御質問については、私なりにお伝えさせていただく機会を賜れればと思う。

◎会長

溝口委員、申し訳ないが、これについては今申し上げたような取扱いにさせていただきたい。

それでは、委員から出された意見については一通り議論をさせていただいた。そのほか、もし何か御意見等があれば、お受けする。

◎浅野委員

すごく勉強させていただいて、何か議論したことが文章になると、すごいなと感じた。

◎中村（彰）委員

中身の内容について質問と御提案だが、資料1の6ページに破線で囲んでいるところがある。職員の構成比推移ということで、かぎ括弧でくくっている。その中に令和2年度ということで、一般職とその他のパーセンテージが書かれている。その他というものについて注釈をつけたほうがより分かりやすいと感じた。恐らく、一般職以外をその他と総称しているが、具体的に、例えばこれは会計年度任用職員であるとか、その辺を細か

く入れたほうが良いと思う。

それで、かぎ括弧の中のことを考えると、類似団体のほうが一般職員の比率が多い、そのほうが良いということだが、前文の職員数の傾向で書いてあるところとリンクしていないと感じた。

◎事務局

注釈がないので、分かりづらかったと思う。その他というのは会計年度任用職員ではなく、これは、あくまでも正規職員の中の内訳になっており、その他というのは、いわゆる保育士ですとか現業職とか、こういったものの割合である。

◎中村（彰）委員

注釈を入れていただいたほうが分かりやすい。

◎事務局

了解した。

◎会長

これは一般職ではなくて、一般行政職ということか。

◎事務局

そうである。

◎会長

一般行政と言ったほうがよい。一般職だと、一般職、特別職の区分になるので。

◎中村（彰）委員

一般職が何を指し示し、その他が何を指し示しということが分からないと、この本文との整合性が見えてこない部分があったので、そこの整合性がはっきりするような形でちょっと書き換えていただいたほうがと思う。

◎高橋委員

今の関連だが、ほかの類似団体は一般行政職が増えてその他の職が減っているということは、要するに、民間委託とかが進んでいるからということか。

◎事務局

そうである。

◎高橋委員

その中身が、この文章からは分かりにくい。何か行政職を増やせば良いように見える。

◎会長

一般行政職以外の部分をもう少し見直す余地があるということなのか。

◎事務局

素案の本文であれば、全体が流れの中で理解が進むように作られているが、そこから切り取っての答申案になっているので、これだけを見ると、確かにおっしゃるとおり、意味が分からない部分があるかもしれない。

◎中村（彰）委員

これを見る人は、これだけを見て分かるような、もうちょっとかみ砕いて、ちょっと丁寧に、細かく注釈なりをつけていただいたほうが、論旨がはっきりすると思う。

◎副会長

いっそのこと取ってしまっってはどうか。

- ◎会長 本文の中で、まず、一般行政職とその他職員を括弧書きか注釈で少し明確化していただくのと、それから、なぜこの割合を見直す必要があるのかというところを一文足すようにする。
- その上で、この構成比率の点線囲みはなくてもいいのではないかと意見である
- ◎馬場委員 アのところも委託化率が書いてあるので、私は入れてもいいと思う。入れないと、やっぱり分からない。
- ◎八木委員 私も、このアところで、アウトソーシングで民間委託を進めるという話をしているので、その流れから、その他というのが、専門職の人たちというようなくくりだと思うが、それは読んで読み取れるし、数字が出ていて、やっぱり見える化でこうだというのが見えなほうで理解は進むと思う。
- 要するに、民でできることは民でというのが主流なので、その他の職の人たちはこんなに多いんだという話と、その前のアところに書いてあるアウトソーシングも進んでいないというところは連携しているので、やはり載せたほうが良いと思う。
- ◎八木委員 ただ、中村委員がおっしゃるように、ちょっと追加の説明は必要と感じる。
- ◎副会長 計画のほうには出てくるのか。
- ◎事務局 そうである。
- ◎会長 計画に引っ張られるのは逆だと思うが。
- ◎副会長 そう思う。
- アとイとウの枠囲みを全部取るというのもあり思うが。
- ◎会長 気になるのは、何か行政の代弁者的になっている感じがしないでもない。残すという意見のほうが強いようであるので、残す方向でよいか。
- ◎副会長 はい。
- ◎会長 残して、一般行政職とその他職員の定義の明確化が必要なのと、あと、なぜそのように割合を変えなければいけないのかということが分かるように一文を足すということによいか。
- その一文については、またここでやるとキリがないので、最終確認をしていただくときに、この一文を足したということをお確認いただければと思う。
- ◎中村（彰）委員 資料1の21ページです。「さいごに」というところで、下から3行目を読むと、「市民も市議会も、そのための協力をお

願いたい」ということである。ここに「そのためのふだんの協力をお願いします」という字句を挿入するのはどうか。「ふだん」というのは、不可能の「不」に、だんは、判断の「断」。不断の協力を願いたいと。

◎会長 今の御提案は、皆さん、よろしいか。
(「異議なし」の声)

◎会長 ほかはいかがか。

◎副会長 20ページのその他の(2)で、三者一体の行財政改革(市民・市議会・行政)の内容について。ここは結構ボリュームを使って書かれており、前回の市民会議で結構盛り上がった部分だと思うので、皆さんに確認したい。

皆さんが言われたことで漏れていることはないかなということの確認である。議会にもちゃんとしてほしいという意見がたくさん出たことが印象に残っている。しっかりしてほしいのは行政だけでなく、議会にもしっかりしてほしいという意見がたくさん出たと思うが、みなさんから出されたご意見で漏れはないか。

◎高橋委員 書きぶりの話ではないが、実は、この間のこの委員会の後に、議会改革度の今年度の評価が出た。この間、どこが出しているんだと御質問された。早稲田大学のマニフェスト研究所、北川さんがやっている。

それで、以前の改革度で小金井市の議会はかなり上位だったような気がするが、今回はそんなに上ではない。300自治体の中に入れば、かなり改革が進んでいるというふうにみなされているが、実際は1,700のうちの300である。だけど、実際、今回の数値を正確に覚えていないが、たしか200番台とか、結構下のほうだったような気がする。

◎会長 今、御意見もいただいたが、20ページの皆さんに御意見をいただいたところの表現はよろしいか。

◎副会長 素案の中には盛り込まれているのか。

◎事務局 そうである。

◎副会長 これは、市民会議から行政に対する答申だが、行政に対してだけではなく議会に対してもこうなってほしい、議会も頑張ってもらいたいという、期待を込めた呼びかけというニュアンスになっているように読み取れる。

- ◎会長 行政に対する諮問、答申ではあるが、行政だけではなし得ないので、市議会にもこうやってくださいよというのは、理屈としてはあり得る。
- ◎副会長 その最後の段落のところの、職員が市民の代表である議会を気にするのは当然のことであるが、議会ばかりを意識して、市民を見る余裕がないのであれば本末転倒ではないかと。市民福祉の増進に向け、行政だけでなく、市議会も有効に機能するよう、改革を望むこと議会もちゃんと有効に機能してくださいということを、市民会議として言っていく、期待を込めて言っていくということだと思う。
- ◎馬場委員 私が言ったところで、過度な資料要求とか残業代の話は多分していたと思うが、質問通告の遅れというのは、私の知り得た事実ではないので、これはどこから盛った話なのかなというところ。
- ◎浅野委員 下から6行目。
- ◎会長 20ページの下から7行目のところか。
- ◎馬場委員 7行目のところである。
- ◎会長 「また」以降か。「過度な資料要求や質問通告の遅れ」。質問通告の遅れは指摘した覚えがないということか。
- ◎馬場委員 入れていただいてもいいが、そういう事実が、私はちょっと聞いたことはなかったの。そういう事実があるという話であればよいが。
- ◎会長 これは執行部側にあるのかと聞かれても困るかもしれない。
- ◎事務局 この辺は、皆さんの意見の中を全部まとめたものである。
- ◎会長 誰かが発言しているということか。
- ◎事務局 馬場委員ではなくても、他の委員がおっしゃったことだと思う。
- ◎馬場委員 誰かが言っているんだったら、いい。私はちょっと聞き覚えがなかったの。
- ◎副会長 現場としては、こういうことで職員の日常業務がストップしてしまうことが結構頻繁に起こっているのではないかと。
- ◎会長 質問通告の遅れがない議会というのは、私は見たことがないように思う。大なり小なり遅れないところはないのではないかと。
- ◎馬場委員 分かった。そういう事実もあるということであれば、おっしゃった委員がいるのであれば、全然問題ないと思う。

- ◎会長 これはどなたかの発言の中からピックアップしているということか。
- ◎事務局 この辺は、私のほうでは加工しないようにしている。
- ◎副会長 市民会議の序盤にワークショップとかをやっている頃に出てきた話とか、そういう議論からの引用もあると思う。
- ◎馬場委員 そうであれば、よい。
- ◎中村（彰）委員 目次の２ページ目、７番、実現化方策のところ、実現化方策が全部１になっている。これは本文と照らし合わせたら、順番に１、２、３、４、５にならないで、全部１になっています。
- ◎事務局 感謝申し上げます。
- ◎高橋委員 細かいところだけで申し訳ないが、１２ページの上から３行目のところで、「経営資源を投入できることで」というのは「投入することで」か。それから、１６ページ、実現化方策２の最後のところで、「市民が市の現状をもっと理解したり、自分たちは何ができるのかを自分たちで考えたりすることを目指さなければならない」。「自分たちで考えたりすること」というのがちょっと子供っぽい感じがして、例えば「自分たちで考えるための支援を行わなければならない」とか何か、そういう感じかなという気がした。
- それから、後ろのほうで、「働ける」というのを「働くことができる」に直している。それと同じようなところが、例えば１７ページの１行目も「働ける」になっていますし、あと、２０ページの（１）市管理職の意識改革の最後の行のところも「働ける」となっている。逆に、１行目のところは、ちゃんと「働くことができる」に直っているが、表現を統一したほうがいい。
- １９ページの一番上の行で、「取り組むものへの成長を図って欲しい」と、これは前の表題からすると取り組む運動である。「取り組む運動へ成長を図って欲しい」ではないか。
- ◎会長 １６ページの実現化方策のところである。
- ◎高橋委員 「自分たちで考えたりする」って、何か。
- ◎会長 市民が市の現状をもっと理解したり、自分たちは何ができるのかを自分たちで考えたりすることを目指す。
- ◎高橋委員 内容的にどうのという話ではない。
- ◎中村（彰）委員 確かにこの一文、ちょっとくどい。自分たち、自分たちといっぱい出てくる。

- ◎馬場委員 市民が市の現状をもっと理解し、自分たちが何かできるかを考えねばならない。「現状を理解し」で、「もっと」は要らない。
- ◎馬場委員 自分たちで何ができるかを考えねばならない。
- ◎八木委員 単純に、「市民が市の現状をもっと理解したり、自分たちが何ができるかを考え、行動することを目指さなければならない」。
- ◎会長 「行動」があるといいかもしれない。
- 「たり」は取ったらどうか。ワードだと、「～たり」の後ろにもまた「～たり」がないと校正機能でチェックが入るように、「たり」を1つだけ使うのは適切ではない。「市民が市の現状をもっと理解し」でよろしいか。
- ◎副会長 「自分たちが何ができるかを考え、行動することを目指さなければならない」ですね。
- ◎会長 「市民が市の現実をもっと理解し、何ができるのかを考え、行動することを目指さなければならない」でよい。
- ◎黒崎副会長 内容に関してではないが、文書全体を通じて段落分けを使うなど読みやすくする工夫をしたほうがよいと思う。
- 16ページだと、このページ全体で、段落が1段落だけの構成になっている。例えば、実現化方策の1番だったら、「自治体における経営資源はヒト、カネ、モノ、情報であるが、行財政改革を推進する原動力はヒトである」で改行するとか。この実現化方策の文章って、それぞれの1番目の文章で結論を示し、その次に解説というつくりになっていると思う。改行するとかやり方はお任せする。15ページもページ全体で1段落構成になっており、単純に内容で改行するなど国語的な修正を加えるだけで読みやすくなると思う。
- 先ほど議論になった20ページの三者一体の行財政改革は、ちゃんと改行されている。こんな感じのほうが読みやすいと思った。市民の方にとって、読んでもらいやすい計画にしたほうがよいと思うので、よろしく願いしたい。
- ◎会長 それでは、ここまでの御意見をもって一旦確定とさせていただき、細かい修正が入ったので、そこを直したものを最終的に皆さんに御覧いただいて確認をして、次回はもう直せないということで御理解いただければと思う。
- それでは、ここまでの御意見をもって一旦確定とさせていただ

く。細かい修正が入ったので、そこを直したものを最終的に皆さんに御覧いただき確認をしていただく。次回はもう直せないということを御理解いただければと思う。

今後の段取りとしては、事務局で答申案の形にまとめて、私のところに一旦回付するそうなので、少し調整はするが、最終的に皆様方に御覧いただき、御了承をいただいて確定ということにしたいと思う。その間に、何か意見が割れて微調整が必要だという場合は、申し訳ないが時間の関係もあるので、会長、副会長調整ということで、御了承いただければ幸いである。

それをもって答申が完成することになるが、次回の最後の市民会議で市長にお渡しすることになっている。皆様、御協力のほど、よろしくお願ひしたい。

◎市長

よろしくお願ひ申し上げます。

◎会長

2番目の答申に関する議題については、ここまでということにしたいと思う。御協力に感謝申し上げます。最後になるが、その他の議題について、事務局からお願いする。

◎事務局

行財政改革2025（案）に対するパブリックコメントについて御報告をさせていただきます。

6月13日に、素案に対するパブリックコメントの募集を終了し、現在、いただいた御意見等の集計作業を行っている。件数に関しては、速報値ではあるが、8名から33件の御意見をいただいている。

今後のスケジュールは、7月下旬にパブリックコメントの結果を公表し、行財政改革市民会議より素案に対する答申を次回、第9回市民会議においていただき、最終調整を経て、8月上旬の行財政再建推進本部にて完成する予定である

◎会長

これをもって本日の議題を全て終了する。長時間にわたる御議論に感謝申し上げます。これで会議を終了する。

（午後8時52分閉会）